



たきばな

一般社団法人
日本ボーイスカウト
静岡県連盟
〒420-0068
静岡市葵区田町1丁目70-1
(静岡県青少年会館内)



2018年夏
たくさんのお出会いと
感動がありました!!!

📍 2018年8月4日 日本スカウトジャンボリー開会式 (写真提供:ボーイスカウト日本連盟)



📍 開会式で演奏
『トランペット鼓隊』(静岡第26団)



📍 盛り上がってます!(浜松第19団)



📍 火おこしBS 1位を受賞
『玉子かけご班』(掛川第2団)

CONTENTS

第17回 日本スカウトジャンボリー	2	いつも元気だっ!ビーバーだより	10
・石川県珠洲りふれっしゅ村鉢ヶ崎		カブつうしん	10
・静岡第9隊 活動報告		ボーイ通信	11
パパ・ママ・キッズ ワンデイキャンプ2018		指導者だより	12
・浜松青少年の家	5	「ジュニアアスリート浜松」に掲載される	14
カーボン・オフセットキャンペーン		おめでとう友情章	14
・富士宮田貫湖周辺	6	マスコミ コーナー	15
富士山御殿場口 外来植物抜根作業		お知らせコーナー	16
・富士山御殿場口新五合目	7		
富士地区とラトビア共和国BS交流事業			
・富士地区	8		
RCJ Re:Questに参加して	9		



第17回 日本スカウトジャンボリー

日時:8月4日(土)~10日(月)
場所:石川県珠洲市りふれっしゅ村鉢ヶ崎



第17回日本スカウトジャンボリー実行委員会

副委員長 **花畑 金亨**

去る8月4日~10日、第17回日本スカウトジャンボリーが実施された。

サブキャンプのスタッフは、2日に入り猛暑の中準備が進められる。4日9時、707名の大派遣団静岡18個隊を予定より早くチャレンジサブキャンプ草原が彼らを迎える。

早速制服を着換えてコンテナー開け、日よけのフライ設営は順調に一日にして13,000名のキャンプ村が現れる。これは珠洲市の人口と同規模である。5日開会式スタート! 7日皇太子殿下を迎えてのジャンボリー大集会、毎晩サブキャンプ広場では、同じ「ちかい」を立てたスカウトが誰とはなしに友情の宴を開催している。正にジャンボリーの醍醐味である。プログラムは、猛暑の中一時中断もあったが、「ジャンボリーゲーム日本一」火起こし、班旗立てでは静岡派遣団で何と3チーム(班)が閉会式で表彰された。スカウト技能も大した物である。~9日閉会式、10日朝日焼けした派遣隊は友情を深めた草原を後にした。





清水町第7団ボーイ隊 村田 優樹

僕は今回初めて日本スカウトジャンボリーに参加しました。毎回参加している隊長から、いろいろな話を聞いており楽しみにしていました。当日はバスに乗り10時間ほどかけて石川県珠洲まで行きました。キャンプ地では先ずテント等を立て、指導者に頼ることなく自分たちでどこをどうしたらもっと使いやすく便利なものになるのかを考え、作り直しをしたりしました。過ごした1週間はとても楽しくまた、仲間との絆を深めることができました。さらにこの大会では、全国のスカウトとキャンプを行うだけでなく、いろいろなアクティビティをしました。中には天候が悪く中止になってしまったものもありましたが楽しかったです。そして夜には交流会を行いました。交流会では他の県だけでなく英国のスカウトともやりました。英国との交流会は、どこまで自分の英語が通じるのか確かめるよい機会となりました。今回のジャンボリーを通じてキャンプの知識から人との関わりまで多くのことを学びました。ここで学んだ多くのことを無駄にせず、これからのボーイスカウト活動や普段の生活に生かし、よりよいスカウトになれるよう努力していきます。



清水町第7団ベンチャー隊 岩崎 悠

ジャンボリーに行く前は心配でした。自分にとってジャンボリーは初めてで、かつ静岡5隊のオオカミ班の次長を任されていた。正直、自分に務まるのだろうかと思っていました。NSJ前、2度の隊集会では、初めて会った人達と協力できるように頑張っていました。この隊集会で新しく学んだ事はNSJでとても役に立ちました。本番ではオオカミ班だけでなく、ウマ班やカラス班、キリン班と協力し静岡5隊として様々な問題やトラブルを解決しました。思い返せば、周りには仲間がいて、それぞれが協力していました。NSJを乗り越えられた理由はこれだと思っています。一人では決して乗り越えられなかっただろう。ありがとう！



第17回 日本スカウトジャンボリー 静岡第9隊 活動報告

静岡第9隊 隊長 原田 雅樹(静岡第27回)

今回、静岡を発つバスへの荷物の積み込みに始まり、現地での作業のほぼ全てをスカウト達に任せた。

自分達で時間内に食事を作り、片付けをしてモジュールプログラムを満喫する。しっかりやろうと思うと班員全員の協力と自発的行動が欠かせないが、当初はなかなか歯車が噛み合わなかった。キャンプ生活に慣れてくると、徐々にやるべきことがわかってきて、最後の2、3日は時間通りに進められるようになった。こうした成長が見られるのも長期キャンプの利点の一つであると感じた。最終日、グランシップでバスを降りたときのスカウト達の笑顔が忘れられない。

静岡第9隊 オオカミ班 班長 富田 結衣(静岡第22回)

17NSJは、私にとっても班にとっても、良い経験になるととても大きなものでした。

今まで私の班には、仕事分担が上手くできない、工夫ができないなど、いくつかの課題点がありました。それを少しでも改善したいと思ってはいましたが、今まで行われてきたキャンプでは改善されず、どうすればいいのか試行錯誤しながらきました。しかし、その問題点がついに17NSJで改善されました。

ジャンボリーにはとても多くの班が参加していたので、友達になって話をするのが、とても良い刺激になったからだと思います。色々な人と話をするこ

とで、他の隊や班での工夫など沢山のことを吸収することができました。ジャンボリーやキャンプは、工夫次第でとても楽しく、充実したものになります。それだけでなく、ボーイスカウトの活動はどれも工夫が大切になってきます。それがとても実感できるジャンボリーでした。今回のジャンボリーで考えたことは、私だけでなく班全体で繋げていけるよう活動しようと思いました。

静岡第9隊 松下 拓真(静岡第22回)

僕は17NSJに参加する前、楽しみだったが、不安の気持ちも強かった。それは、一週間もの長期キャンプは初めてだったからだ。参加したプログラムの中で一番楽しかったことは、グランドゴルフだ。イギリスの隊と対戦して負けたけれども、一緒に写真を撮ったりして交流できてよかった。宗教派を超えた集いでは、僕たちの隊はステージに立って「みんながみんな英雄だ」を歌った。このために前から練習してきたが、会場の仲間も歌ってくれて、盛り上がった。会場のスカウトが一つになっているのを感じて、とてもうれしかった。最初の2、3日は時間通りに活動できなくて、参加できないプログラムもあったがだんだん改善できてきて、自信がついてきたので最初の不安な気持ちはいつからか忘れてしまっていた。今回の経験を、日頃のスカウト活動や、日常生活の中で、活かしていきたいと思う。





スカウト数の適正な規模を維持・持続できる、募集策を模索して8年前に始まったのがパパママキッズワンデイキャンプです。

当時発団して6～7年程度の弱小団でしたので、さまざまな手法を試していた時期でした、ボーイスカウト説明会で人は集まらず、口コミという入団者の紹介が唯一の方法でしたが 限りがありました。そこで考え出されたのが”パパも



パパ・ママ・キッズ ワンデイキャンプ2018

日時:7月16日(月) 場所:浜松青少年の家
浜松東地区浜松第30団 団委員長 稲野吉弘

ママも仕事を持ち多忙な時代だから子供と一緒に自然にふれあいながらボーイスカウトを知ってもらおう”というコンセプトでした。

野外炊飯に森の散策、ボーイスカウト流ゲームと構成はお手の物。この企画で一番重要なのが申し込み方法です!電話・ファックス・メール・QRコードを用意。展開初年度はチラシをバラマキしましたが、申し込み開始日はドキドキでした。

3日間で予定数は埋まり、選外を知らせるほど応募多数になりました。この日から早8年、時期、募集数、有償、場所などを試しながら現在のスタイルに落ち着きました。現在、スカウト数の7割がこの企画がらみで入団しています。しかしここ1～2年は募集数は埋まるのですが、入団をしない傾向にあります。これまた時代の変化の兆しです。これからも知恵を絞り、新機軸を開発して乗り切ろう。ピース!



カーボン・オフセットキャンペーン

日時: 7月28日(土) 場所: 富士宮市田貫湖周辺

富士宮地区コミショナー **細野 猛嗣**

カーボン・オフセットキャンペーンとは、国立公園内で排出されるCO2を、省エネ・再エネ設備の導入や森林管理によって、排出量を削減したり吸収することで埋め合わせる環境省と経済産業省が連携した取り組みです。ボーイスカウト日本連盟は、このキャンペーンに賛同し、「自然体験」と「環境学習」および「奉仕活動」をプログラムとして行い、各自が自然環境や地球温暖化について考え、自然保護活動を始めの機会を提供しています。

富士宮第5団ビーバー隊とカブ隊は、日本連盟の協力を得て、7月28日(土)台風12号が襲来する前に、富士宮市田貫湖周辺と小田貫湿原の自然に触れる「自然体験」と青木団委員長から富士山と森林の生い立ちを聞く「環境学習」および来訪者にキャンペーンのチラシを配る「奉仕活動」を行いました。スカウトは、自然・森林の大切さを知り、自然を守る意識を持ったようです。

富士宮第5団 ビーバー隊 鈴木 晴

はじめてカーボン・オフセットキャンペーンをやりました。青木だんいいんちょうからちきゅうおんだんかのことをみんなで聞きました。ちきゅうがどどんあたたかくなって北きよくのおおりがとけて、どうぶつが住めなくなってしまうことを聞きました。

それから、こうごうせいはどういうことかを聞きました。木がにさんかたんそをすってさんそを出してくれるから、生きものがいきていけることを知って、木はたいせつだなと思いました。

富士宮第5団 カブ隊 川原崎 郁斗

カブスカウトで、カーボン・オフセットキャンペーンに参加しました。最初歩く前に、青木団委員長が木が大切なことを教えてくれました。動物や植物を守るために、森をのこすことは、本当に大切なことで、守らなくてはいけないことだと思いました。

次に、ちらしの紙を他の人たちにわたしました。ちょっときんちょうしたけど、他のみんなが、がんばってやっていたのを見て、自分もがんばってできました。わたす人が外国の人だった時は、少し困ったけれども、わたすことができてよかったです。





富士山御殿場口 外来植物抜根作業

日時:平成30年8月4日(土) 場所:富士山御殿場口新五合目

小山第4団団委員 濱田 敏彦

平成28年4月のある日、一本の電話がありました『私、ホシガラスの会の横山と申します。富士山御殿場口の砂れき等の調査を行っており、本を出版しました。今年から周辺のあってはならない草の除去作業を始めます。新五合目で活動する場合、連絡してください。』私は、『そのような事でしたら、5月の地区委員会に来ていただき皆さんの前で説明して欲しい』旨の返事をしてからホシガラスの会との付き合いが始まりました。

御殿場口新五合目駐車場周辺では過去の植樹活動により自然景観が失われており、調査で記録された186種の植物のうち120種が外来種を含む非在来種になっております。

地区委員会では、横山氏の説明を聞き、何時に行うかの検討を行い、10余年行っている「秩父宮杯富士

登山駅伝大会開会式』ならばわざわざスカウトを集めなくてもスカウト・指導者並びに保護者が一堂に会するので、この日の開会式終了後に行うこととし、この取り組みを始めました。

侵入植物の駆除には長期の取り組みが必要です。御殿場口の自然環境を守るためにはどうしたらよいか、どのように自然と関わるべきかを考える良い経験になりました。

今年で3年目、あの広い富士山の裾野、特に御殿場口新五合目駐車場付近は、日陰もなく、8月の第一土曜日で最も暑い中ですが、参加スカウトは汗をふきふき一生懸命頑張る姿は、何物にも替えることのできないすがすがしいものであり、10年20年と長期にわたる御殿場・小山地区の取り組みになっていって欲しいと願っております。



富士地区とラトビア共和国BS 交流事業



富士第8団 ローバー隊 藤島 沙公良

富士地区とラトビア共和国ボーイスカウトとの交流も、今年で10年を迎えることになり、今年は、我が家もホームステイ先として“エマ”がやって来ることに。そんな中、地区ローバーを中心に何かできなかとと思い、交流会を企画し実施することになりました。午前中、富士市長表敬訪問の後、丸火自然公園にてラトビアスカウトと富士地区のスカウトが交流会を行いました。昼食に流しそうめんやBBQ、夕方からはゲームやキャンプファイヤーで盛り上がり、はじめは緊張して互いに会話することもあまりありませんでしたが、同じ物を食べ、一緒にゲームやスタンプでの交流を通じて、解散の時には、みんな笑顔で身ぶり手ぶりを使いながらも談笑し、写真を撮ったりしていました。

ビーバースカウトからローバースカウトが一堂に会して同じことをして楽しむ。ましてや違う言語を使う仲間もいる。初めての経験で、今振り返ると反省ばかりですが、富士地区のスカウトに貴重な機会を作れたと思います。交流会に参加したみんなが国際交流に興味を持ち、今後、世界に羽ばたいて貰えたら嬉しいです。



富士第10団 カブ隊 赤池 拓真

ぼくは、ラトビアスカウトと初めての交流会をしました。国際交流だったので、とてもきんちょうしていました。スカウトの仲を深めるために、ジャンケン新聞折りたたみ、しっぽとり、しんげん地はだれ?などのゲームで遊びました。ゲームの中で、工夫していた事は、しっぽとりです。ハンカチをしっぽにすることが多いのに、ネッカチーフで工夫したことで、スカウトとして仲を深められた気がします。

場所を移動し、キャンプファイヤーをやりました。最初、英語で自己紹介をしました。むずかしかったけれどしっかり言えてよかったです。他の団のスカウトが楽しいゲームや歌をうたったりしました。想っていたよりも楽しくて、ラトビアスカウトも楽しんでもらったと思います。ぼくたちも参加している

ので、10団のボーイ隊から教えてもらったTOTO便器をやりました。ラトビアスカウトも身振り手振りでまねしてくれてうれしかったです。最後に日本のプレゼント(扇子、こま、けん玉)をわたしました。喜んでくれてうれしかったです。また、ラトビアスカウトの人たちと交流したいです。





RCJ Re:Questに参加して

三島第5団 ローバー隊 三田あかね

今回初めて実行委員という立場で野営大会に参加しました。今までジャンポリーには参加隊としてしか参加したことがなく、過去のRCJ Questにも参加者として行っておりました。5月の全国大会から、RCJ運営委員会と野営大会実行委員会の連携係として途中から実行委員会に加わり、ロゴマークのデザインをさせていただいたこともあり、主に制作物を担当させていただきました。

自分のつくったものをみんなに使ってもらうことができ、とても嬉しく思います。

準備段階や大会期間中には、自分たちが実行するわけではないプログラムを完成させ実行すること、それに伴う安全救護の管理がいかに大変で重要であるかを学びました。途中から実行委員会に入った身ではありますが、大会終了後には、大きな達成感と充実感を味わえました。今回運営に参加でき本当に良かったと思います。

最後になりますが、参加にあたりご協力いただきました指導者の方々、RCJ Re:Questに参加してくれた全国のローバースカウトたち、そして実行委員会の皆さん、本当にありがとうございました。

浜松第12団 ローバー隊 袴田真由

2年前のRCJ Quest 2016、1年前のRCJ フォーラム2017に続き、3回目の参加となった。

今大会、全国のRCJ 構成員と野営やプログラムを通じて友情を深めることに加え、RS との交流により様々な意見や価値観の共有をし、視野を広げて自己研鑽に励むことを参加動機としました。2年前は同世代スカウトの参加が多く、全国のRCJ 構成員との友情を深めることが大きな参加動機となっていましたが、今大会では自分よりも

若手のスカウトが多く参加する中で、RCJ 構成員としての自身の役割は何かを考える機会が多かったと感じています。

RCJ 立ち上げ、野営大会復活など現在のRCJ 活動に至るまでに様々な歴史があります。

RCJ とは何か。RCJ 活動を知らないRS たちが全国にまだまだ存在する中で、RCJ の活動遍歴を伝承し、今後の活動展開を見守っていくことも自分の今後の役割なのではないかと考えました。今大会実行委員長がよく口にしていた、今大会のテーマである「Good Resolution」、各々の幸福や社会全体が幸福に向けて進むための「Good Resolution」とは何か、改めて考える良い機会となりました。





いつも元気だっ! ビーバーだより

たのしかったキャンプ

志太地区 大井川第3団 ビーバー隊 川村 大進

夏のキャンプで、ぼくがとくにおもしろかったのは、アマゴとりとキャンプファイヤーでした。

アマゴをとったら、目と目のあいだにデコピンをして気ぜつさせました。次にしっぽから頭のほうにハサミでお腹を切って、ないぞうを取ってからエラのギザ



ギザをとりました。そして、竹ぐしで口からしっぽまでさして、おちないかをかくにんしました。塩をふってやきました。手がとてもくさくなったけど、すごくおいしかったです。

キャンプファイヤーでは「アブラハム」の空手の歌が、オレンジオビのぼくにはすごくおもしろかった。上段ツキ！ 中段ツキ！ サソリ！！とうたって、おどってすごくもりあがった。

そのほかにも、わりばしテッポウを作ったり、船に乗ったり、ハイキングで木のかんさつをして名前をおぼえたりして、楽しいことばかりでした。キャンプっていいなあと思いました。

ザリガニ退治

浜松地区 浜名第1団 ビーバー隊 伊藤・齋藤・田中

私たちは、カブのお兄さん、お姉さんたちとザリガニつりをしました。しかけも自分たちでつくり、えさはするめをつかいました。最初はザリガニをなかなか見つけられず、つることができなかつたけど、なれてきたら見つけることができ、近くにえさをやるとハサミでつかみその時引き上げるとうまくつれました。楽しかったです。このザリガニつりの目的はほたるのえさになカワニナを食べてしまうザリガニをたいじするためだと隊長からききました。今はまだホタルはいませんが、いつかほたるが見られるといいなあと思いました。



カブつうしん CUB SCOUT



たです。テントの中で、友達と3人で、カルタをやったり、学校の話をしたりしました。朝もわくわくして、5時くらいにはみんなで起きてしまい、また話をしたりしていました。

2日目に、ペットボトルをつなげて、木と組み合わせで、みんなで2人乗り用いかだをつくりました。僕たちは、ペットボトルをテープで止めたり、竹をのこぎりで切ったりして、隊長がひもで組みたてました。完成したいかだは大きくて重かったので、6人ほどで力を合わせて運び上流から2人ずつ乗せて流れていきました。自分たちでつくったいかだの乗りごちは最高でした。もっともっと海まで、長いきよりを乗ってずっと下っていきたかったです。

とても楽しかったので、夏が何回もあればいいのに、と思いました。

夏のキャンプ

浜松東地区 浜松第6団 カブ隊 山崎 新

今年の夏は、天竜区の気田川のほとりでキャンプをしました。キャンプでは、水遊びや流しそうめん、キャンプファイヤーで劇や歌、いろいろやりましたが、一番思い出にのこったことは、テントで寝たことと、いかだを作ったことです。

着いた日に、テント立てをしました。テント立てはまだ上手ではありませんが、副長や友達と練習した通りに組み立てました。テントをたてるのはいつも楽しくてわくわくします。新しいテントの中は、なんだかとても気持ち良かったです。夜は昼とちがってとても涼しく

団キャンプ

浜松東地区 浜松第6団 カブ隊 鈴木 昌大

ぼくのカブ隊の団キャンプの目標は2つありました。1つ目はテント設営です。新しいテントをぼくたちスカウトだけで立ててみようと思いました。最初に共働センターで練習しました。だから森山バンガローで立てたときポールをテントにさしこむところまでうまくいきました。フライシートは高さがとどかなかったのが、副長がやりました。新しいテントの中はビニールのおいがしました。ねてみたら地面の石がボコボコ感じました。

2つ目はペットボトルいかだです。お父さんの職場から、期限切れの天然水をたくさんもらってきました。自

分で飲んだり、花にあげたりして空(から)にしました。72本つかいました。乗ってみたら、しなって楽しかったです。

今回のカレーはボーイ隊と作りました。お米も自分でたきました。来年ボーイ隊に入ったら、カレーもお米も自分でやると思いました。お母さんは口うるさいのでいなくてもうまくいくと思います。

その後入ったふろは気持ち良かったです。木で作ったおふろです。外の冷たい風とふろの熱さでちょうど良かったです。2年前は10人ぐらいで入ったけど今年は2人で入りました。ぼくは、クマだから2年前よりおそい時間にゆっくり入りました。

2日目の昼ごはんは流しそうめんでした。ブドウやアヒルやミカンや果物やチーズやゼリーが流れてきました。ぼくがとりたかったのは、アヒルとミカンでした。アヒルは、はしでつかんでもすぐ逃げてしまいそうになりました。ミカンはたくさんとれました。

そうめんが一番人気がなかったので笑えました。ぼくだったらメロンやカボチャやアメリカンドックやソーセージやパンやお米や生タマゴなどを流してみたいと思いました。

8月!大きな行事たくさん

御殿場・小山地区 御殿場第3回 カブ隊 佐藤 舞乙

8月4日にごてん場・小山地区のほかのだんの人たちといっしょにふじ山の外来植物やしん入植物をとる作ぎょうにさんかしました。ホシガラスの会の人やスジグロシロチョウがモンシロチョウとちがうことや、イタドリは白色やピンク色のりょうほうの色がさくんだと教えてくれました。ふじ山の植物や生きもののが分かりました。その後わたしはヒメスイバをとるようになりました。シャベルでねっこをさがしながら、たくさんとりました。自ぜんかんきょうをまもることは大切だと思いました。

8月11日～12日にだんキャンプにさんかしました。乙女森林公園キャンプ場でテントの中でねました。

テントをたてるのはボーイたいのお兄さんたちがやってくれて、ペグうちとポールを組み立てとポールを通すところをやりました。ねぶくろでねて、ねごこちさい高だと思いました。夕はんのカレー作りでは、じゃがいもとにんじんのかわむきをがんばりました。ボーイたいのお兄さんたちと作ったカレーはおいしかったです。



楽しいキャンプ

磐田地区 磐田11回 カブ隊 石山 瀧斗

浜松市の旧くるめ木小学校でキャンプをしました。その中でも、楽しかった事を二つ書きたいと思います。まず一つ目は、川遊びです。川の中にある石をけずるのが楽しくて小さくなって、とてもとんがってしまいました。サワガニもいました。つかまえようとしてもこわくてできませんでした。ボーイ隊のりゅうのすけくんに教えてもらい、つかまえる事ができました。水切りもやってたった二回しかできませんでした。二日目に松本たいちょうが工作の道具や材料を用意してくださったので工作をしました。わゴムと木の板でおもしろい形の物ができました。ぼくはかんでおもしろい物を作ろうと思って作ったら、弓矢みたいな物ができました。ためしにうってみたらとびませんでした。もうちょっと工夫したら、速く遠くまでとびました。やったと思いました。

二つのことを書いて、ぼくは作ることが好きなんだ!とわかりました。キャンプは、自分自身のためにもなるし、こまったときに役だつから、キャンプはいいなとおもいました。



楽しかった合同隊集会

清水地区 清水第17回 ボーイ隊 協葉 慶士郎

17NSJの事前訓練を7月15日に浜松21団と合同でJR天竜川駅近くのお寺で行いました。清水から4人、浜松のスカウトは7人の合同隊集会が10時から始まり、最初の自己紹介では、お互い緊張していましたが、しばらくすると何となくスカウト同士で話ができるようになりました。

この日の活動は大きな釜を使っての炊飯が中心で、浜松21団の隊長さんからまぎに使用される木の種類の違いや、ナタの使い方を指導していただいて、まぎを割りました。そのあと一升五合のお米を炊きましたが、大きな釜なのに早くご飯ができるのに驚きました。炊き上がってみんなでおにぎりを作って食べました。塩だけのおにぎりでしたがおいしいおにぎりでした。

お昼を食べたあとは、ロープワークと手旗信号に分かれて練習したあと、火起こしゲームを行い、おやつにホットケーキを作って食べました。非常に暑い日でしたが、午後4時過ぎまで楽しく活動でき、17NSJに

行くスカウトと顔見知りになれたことが大変励みになりました。



指導者だより

17NSJ 紀行

2SC 配給食堂班長 大澤 晶

2 回目の珠洲、前回と景色は同じ。けれど水回りも改善されサイトは広々。願ってもない好天にも恵まれ快適そのもの。2800 人の食材配給と 200 人のスタッフの食を預かる配給食堂班。多めの食材に苦慮しつつ、クレームもなく、皆の腹を満たすことができたようだ。そのエネルギーを源に、連日の酷暑の中でスカウト達は元気に走り回りプログラムを楽しんでいた。日本一になった静岡県のチームもあり我々も鼻高々だ。スカウト達は多くのことを学び、友を得、力を身に付けたことと思う。我々スタッフも情報のない中、現場力を磨き集中力で乗り切った。皆がこの経験を次のスカウティングに活かしてほしい。

カブ・ビーバーラー「田んぼアート」

掛川袋井地区 野営行事委員長 原 浩一

日時：5月20日(日)

場所：菊川市下内田稲荷部田んぼアート会場

掛川・袋井地区カブ・ビーバーラーを実施し、スカウト・体験者・指導者および保護者を含め菊川市の田んぼアートの苗植えに約 60 名位参加しました。ビーバー・カブそれぞれにグループ分けし 4 組にわかれて実施を行いました。苗植えは 10 時 30 分から 40 分くらいで終了し、その後、泥んこ遊びをして過ごしました。泥んこ遊びで田んぼの中を走り回ったり、泥を投げ合ったりして楽しんだようです。お昼前に田んぼからあがり着替えをして昨年とれたお米で作られたお弁当を食べました。午後はお米についての〇×クイズを行い楽しみました。1 日泥だらけにもなりましたがスカウト自身充分楽しんだのでないかと思われま



命を守る防潮森の育成をしよう

浜松東地区 浜松第 15 団 団委員長 佐藤 誠

ボーイスカウト浜松第 15 団は、遠州灘海岸に土地本来の植生である樹種（主に常緑広葉樹）を選定し、環境・防災・教育に貢献できる循環型森づくりを行なう“～KALANETWORK”に賛同し、「防潮森」を植樹する活動に参加しています。今回は、防潮森を育成して防災に貢献植樹した苗木の育成を目的に草取りを行いました。苗木より伸びた草、苗木に巻き付いたつるを取り除きしっかり生育させるための作業です。“～KALANETWORK プロジェクト”は、広葉樹を企業・自治体・学校等の団体で相互協力し合い植樹し、植樹作業により地域に「和」をつくるお手伝いをする事で命の大切さを次世代に伝える目的で行っています。「防潮森」とは、東日本大震災に伴う津波被害では津波対策として施されていた多くの防潮堤や海岸林が破壊され機能しませんでした。遠州灘も同じく津波被害が予想され防潮堤や海岸林の対策は不可欠で被災地でも生き残ったタブ・シイ・カシ類の広葉樹を主木に植樹し根を深く張らせ相互に絡みあうことにより津波に耐える土壌を形成させる自然の盾が「防潮森」です。当団では、津波対策「防潮堤」に団の防潮森を作り環境と防災に貢献する目的と昨年、植樹した苗木の育成として「命を守る防潮森の育成をしよう」と題して活動を行いました。団が位置する地域は、東海地震が予想され、駿河湾から静岡県の内陸部を震源域とするマグニチュード 8 クラスの巨大地震で、その発生の切迫性が指摘され、駿河湾内にある駿河トラフ周辺の部分の岩盤は 160 年以上もずれているので「東海地震はいつ起こってもおかしくない」と言われて自治体、企業、学校では避難訓練が行われ災害に対して対策がなされています。活動に関しても活動計画書には「安全対策」として活動場所が海岸線に近い場合は津波に対して避難経路等の対策を行っています。遠州灘海岸の「防潮堤」工事は進行中で、今後も団の防潮森【そなえの森】を増やして育成して行きたいと思ひます。

8 月の隊集会

富士地区 富士第 2 団 ビーバー隊 隊長 廣瀬 真由美



8 月の隊集会は毎年、近くの川で水遊びです。水遊びは日頃の活動より「危険」が目に見えやすく、スカウトにも理解しやすい為、安全教育の絶好のチャンスです。隊長の話に目を輝かせて食入り、自分たちの意見も活発に出ます。ライフジャケットを着る事で緊張感が生まれ「一人前」の顔を見せるスカウトを見て私は「しめしめ」をニヤニヤしてしまいます。夢中で全力で遊ぶ

カウトに「はい、終わり。」と声をかけ「まだあ！帰りたくない」と駄々をこねられるのも私のよろこびです。



発団41年目の目標!!

富士宮地区 富士宮第21団 団委員長 赤池 俊洋

私達、富士宮第21団は、発団40周年記念を終えて、新たな年として、41年目の活動に入りました。発団時より、団の目指す目標は地域・行政区と一体化して行政区に対して、毎年、何らかの奉仕活動を行う。例えば、区の体育祭・開会入場式、区内での清掃奉仕（スカウトの日での活動）、など、40年間続けてきました。さらには、他の奉仕団体（BS関係以外）との共催事業の実施、富士宮ワイズメンズクラブとの共催、ほうとう会、もちつき大会などを、行ってきています。団内においては、団委員、リーダー、の意見を交わし、スカウトと共に、仲良く、協力しあう・仲間意識を高め、充実した活動をして来ています。リーダーの養成に関しては、団所属の若手OBスカウトが講習会、研修所に参加し若手指導者として活躍しています。時代の流れと共に、スカウトの数は減少しておりますが、発団時の目標、積み上げた歴史を大切にして、団が発展してゆくように積極的に努力して活動して行きたいと思っております。



ボーイ隊顔負け？カブ隊大活躍！

伊東地区 熱海第11団 カブ隊隊長 望月 丈永

伊東地区では毎年5月に下田黒船祭、8月には伊東按針祭に奉仕で参加しています。どちらも地域にとって国際的な一大イベントで、その中でボーイスカウトは重要な役割を担っており主役をボーイ隊、脇を固めるのがカブ隊というのが通常でした。しかし、今年は日本ジャンボリーの派遣スケジュールと按針祭の開催日が重なってしまい伊東題が発生、隣の市で活動する私たち熱海11団にも応援要請が加する事になりました。

按針祭当日、少数精鋭のボーイ隊が式典の最重要ポジションを、カブ隊にも会場入口での重要な役務を任せられました。本来なら港の近くなので観察ゲームなどをして遊ぶ予定でしたが、伊東のスカウトと一緒に朝早くからリハーサルを頑張り午後の式典では外国の来賓の方から記念撮影を求められるなど大活躍をしました。いつもはボーイ隊に甘えてばかりですが、この日はとても自信に満見してくれました。カブ隊もすごいんだぞ！この場を借りてご報告いたします。



集う場所の提供

島田地区 相良第1団 カブ隊 隊長 山本 剛士

私たちの相良第1団では、毎年12月31日深夜から1月1日早朝にかけて夜間ハイクを行っています。ビーバースカウト隊は14Km、カブスカウト隊は27Km、ボーイスカウト隊以上は30Kmと各年代に合わせた距離を歩いています。昨年度で42回を数える伝統ある行事です。この行事は私がスカウトの時にも行われており、カブスカウトの時にも、仲間のスカウトと途中居眠りしながら歩いたことを覚えています。またボーイスカウトの時には部活が忙しく通常の活動にはあまり参加できませんでしたが、年末年始で部活が休みのため夜間ハイクだけは参加することができました。この活動で久しぶりに会うスカウト仲間と楽しい時間を過ごした記憶があります。私にとってのスカウト活動は学校の友達・部活動の友達等とは違う仲間の集まりであり自分の世界を広げてくれた場所だと思っています。

このような経験をもとに現在指導者として隊の運営をしています。現在のスカウトは塾に通い始めた・部活動が忙しくなった等でスカウト活動を辞めてしまいます。子どものころから勉強や部活動だけの世界になってしまっているのでしょうか？スカウト活動は結果・成果がすぐ目に見えてあらわれるものではありません。そのためとてあきらめず登録しておいて時間の空いた時だけでも良いので活動に参加してほしいと思っています。そのために私もスカウトがいつ来てもいいようにスカウトの集う場所を提供していきたいと思っています。そして今後自分が指導したスカウトが大きくなって隊長と〇〇やったけね～、隊長と〇〇行ったけね～等と話が将来できたら良いと思っています。



スポーツマガジン誌

「ジュニアアスリート浜松」に掲載される!



ボーイスカウト浜松連合協議会
稲野 吉弘

県西部地区で小中高の部活を記事にしている小冊子「ジュニアアスリート浜松」7月号でボーイスカウト特集が掲載されました。

次回は9月号に掲載、西部エリアのコンビニ、ストアに置かれます。



おめでとう!! 16名の仲間が友情章を授与されました。

「友情章」は、君の友達に「スカウトになろうよ!」と言って、友達がスカウトに入るともらえる章です。

記念品はネームプレートがもらえるよ。次は君が友達を紹介して「友情章」をゲットしよう!

平成30年8月度「友情章」顕彰者名簿

組織拡充委員会

氏名	地区	所属		氏名	地区	所属	
木村 紗夕	三島	三島第5団	BVS隊	原田 和佳	静岡	静岡第27団	B S隊
増田 悠人	三島	三島第5団	BVS隊	鈴木 璃子	沼津	沼津第19団	BVS隊
酒井 汐梨	三島	三島第5団	BVS隊	家田 真吾	島田	島田第5団	C S隊
佐野 璃子	三島	三島第5団	C S隊	白鳥 孝	清水	清水第19団	C S隊
酒井 七華	三島	三島第5団	B S隊	有賀 陸登	富士宮	富士宮第21団	BVS隊
中井 裕介	沼津	裾野第3団	BVS隊	阪本雄一朗	静岡	静岡第27団	C S隊
山本 暖	沼津	裾野第3団	BVS隊	長谷川 桜	志太	焼津第5団	C S隊
松本 なみ	静岡	静岡第27団	C S隊	紅林 蒼空	清水	興津第1団	C S隊



マスコミコーナー

マスコミ(新聞・雑誌)に掲載された“スカウト活動の記事”を紹介します。



ブロック塀倒壊 危険性を体感
 消防防災イベント
 ボイススクウト日本
 連盟では、親子で
 防災用品を覚えよう
 として、災害への備えを主
 たる「全国防災キャラ
 バン」を浜松市東区
 のイオンモール浜松市野
 で開いた。買い物客ら
 が多様な体験を通じて
 防災の知識を学んだ。

ブロック塀に見立てた発泡スチロールを積み上げる子どもも22日午後、浜松市東区のイオンモール浜松市野

平成30年度
「全国防災キャラバン」
NHK静岡県のニュースに放映される
 開催日 平成30年7月22日(日)10:00~16:00
 開催場所 イオンモール浜松市野 シンフォニーコート
 放映日 NHK総合 平成30年7月22日18:45(静岡県のニュース)
 番組よりのピックアップ



平成30年7月23日(月) 静岡新聞 朝刊に掲載



着火技術日本一を報告

B.S.掛川 第2回

日本ボイススクウト
 県連盟掛川第2回が、
 このほど、石川県で開
 かれた日本スカウト
 ジャンボリーのシャ
 ンボリーゲーム・火
 こしんチャーム7人
 班の部門で日本一
 に輝き、23日に掛川
 市役所で優勝報告し
 た。

優勝したのは豊田遠
 大さん、後が山中3
 年(戸塚和杜さん、掛
 川西高2年)、二好天
 登さん(磐田高1年)
 らう。まきを割って
 限られた木数のマツ
 チで着火し、竹ひしを
 焼き切る早さを争う
 ルールで、今年で初
 めて開催された。出
 場者は内容を知らな
 ずに臨み、同班は木
 皮をむいて着火しや
 すくするなど工夫し
 て、6分間で成功させ
 た。

指導者の戸塚哲直さ
 ん(49)は「普段の活動
 で身につけた技能を
 発揮できた」と喜び
 を語った。同班はほ
 かにも14人が出場し
 た。

平成30年8月24日(金) 静岡新聞 朝刊に掲載



B.S.GS富士と交流10年

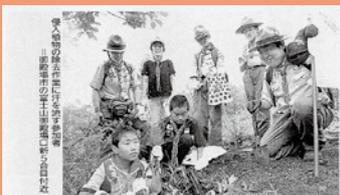
ラトビア団長ら訪問

相模川を流すラトビア市と掛川市のスカウト4人が20
 日、相模川を訪問した。日
 相模川を訪問した。日
 相模川を訪問した。日



交流開始10周年の節目を報告するエラート団長(手前右)から2人目)ら一富士市役所

平成30年8月21日(火) 静岡新聞 朝刊に掲載



侵入植物を除去

御殿場口新5合目周辺
富士山
 侵入植物を除去
 小中高生と自生との違いも学習

侵入植物の除去は、自然環境の保全に不可欠な活動です。御殿場口新5合目周辺では、小中高生と自生との違いも学習し、自生植物の保護に取り組んでいます。

平成30年8月5日(日) 静岡新聞 朝刊に掲載



効果やテンパリとを初めに通過し、侵入植物の除去に取り組んでいます。

平成30年7月6日(金) 静岡新聞 朝刊に掲載

おしらせコーナー

《県連定型訓練》

ボーイスカウト講習会静岡第593期

●日 時:平成30年11月25日(日) ●場 所:浜松市立青少年の家

《県連定型外訓練》

「ひとりで悩まなくても大丈夫!」《隊指導者向け》

●日 時:平成30年11月24日(土)~11月25日(日)
●場 所:A)三島市立箱根の里少年自然の家・キャンプ場
B)浜松市立青少年の家

●参加対象:隊指導者 ●申込み:10月31日(水)まで

「団指導者の支援能力向上」《団指導者向け》

●日 時:あ)平成30年11月24日(土) 13:00~16:45
い)平成30年11月25日(日) 9:00~12:30
●場 所:A)三島市立箱根の里少年自然の家・キャンプ場
B)浜松市立青少年の家

●参加対象:団指導者 ●申込み:10月31日(水)まで

「県連ホームページ」が新しくなった!

◎一般の方に向けた情報発信を充実!

①スカウト活動を紹介するページ ②市町名から団を検索するページ

◎指導者向けは、「見やすい・使いやすい」ページ構成に!

是非、アクセスしてご活用下さい。(総務委員会)

日本ボーイスカウト静岡県連

検索



ボーイスカウトへのお問い合わせ・入隊希望は

ボーイスカウト静岡県連盟事務局 (☎ 054-255-6185) まで

ホームページもご覧ください。http://bs-shizuoka.com

編集日記

今年の夏も17NSJ、隊の野営訓練他、たくさん思い出がありました。Facebook等SNSで情報を配信する隊も増えて参りました。今後も広く県内各隊の皆様と情報共有していきたいと思ひます。今後も取材依頼、ご意見などございましたら県連事務局までお問い合わせください。

広報「たちばな」編集部 杉山 文朗

広 報 “たちばな” 2018 年 10 月

発 行 所 一般社団法人 日本ボーイスカウト静岡県連盟
〒420-0068 静岡県静岡市葵区田町 1-70-1
県青少年会館内
TEL054-255-6185 FAX054-255-6186
http://bs-shizuoka.com

編集責任者 組織拡充・広報委員長 土山 惟之

印 刷 三富印刷株式会社
静岡県浜松市東区上新屋町 30-1 TEL053-467-4678

発行部数 4,957 部